

2021(令和3)年度 第2回

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会

日 時：2022(令和4)年2月25日(金) 9:00～12:00

場 所：ウェブ会議システム「WebEx」

次 第

1. 開会

2. 議事

(1) 2021(令和3)年度重点方針評価及び地域別意見交換のテーマについて

(2) 2022(令和4)年度取組について

(3) 地域別意見交換

－群馬：1 薄明薄暮の捕獲

2 笠ヶ岳及び泉水田代における柵設置の検討

－栃木：鬼怒沼の現状共有と防護方法の検討

－福島：1 帝釈山・田代山周辺での対策

2 大江湿原の柵の維持管理

3. 閉会

【配布資料一覧】

○議事(1)

資料1 2021(令和3)年度重点方針評価シート

○議事(2)

資料2-1 2022(令和4)年度実施計画(案)

資料2-2 Googleマイマップによる情報共有

○議事(3)

資料3-1 栃木意見交換会の導入

資料3-2 群馬意見交換会の導入

資料3-3 福島意見交換会の導入

2021(令和3)年度 第2回 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会 出席者名簿

2022(令和4)年2月25日(金)

所属	役職	氏名	会場(web)
関東森林管理局 計画保全部保全課	野生鳥獣管理指導官	菊池 毅	群馬
	保護係長	糸永 亘児	群馬
会津森林管理署南会津支署	総括森林整備官	高木 晃	福島
	首席森林官	田部 大輔	福島
日光森林管理署	地域林政調整官	泉田 利明	栃木A
	主任森林整備官	町田 次郎	栃木A
利根沼田森林管理署	森林技術指導官	須藤 洋一	群馬
	森林技術普及専門官	中村 聖子	群馬
中越森林管理署	総括森林整備官	近江 隆昭	福島
	森林整備官	宮嶋 沙織	福島
	主事	早川 愛理	福島
栃木県 環境森林部自然環境課	課長補佐	丸山 哲也	栃木A
	主事	石川 雄一	栃木A
県西環境森林事務所環境部環境企画課	副主幹	渡邊 智佳	栃木B
群馬県 森林環境部環境局自然環境課 尾瀬保全推進室	企画推進係長	西嶋 弘満	群馬
	主任	大澤 康生	群馬
地域創生部文化財保護課	主幹	茂木 誠	群馬
福島県 生活環境部自然保護課	主事	相川 直気	福島
	教育庁文化財課	文化財主査	篠田 有希
新潟県 県民生活・環境部環境企画課	教育庁文化行政課	欠席	
		欠席	
日光市 農林課	課長補佐兼林政係長	千葉 達哉	栃木B
	副主幹	蜂須賀 博史	栃木B
	主事	小泉 好徳	栃木B
片品村 農林建設課	課長	中村 学	群馬
	課長補佐	高山 昭弘	群馬
南会津町	環境水道課長	遠藤 知樹	福島
	農林課 主事	千本木 洋介	福島
檜枝岐村 産業建設課	課長	星 公二	福島
	副主査	井上 宏司	福島
魚沼市 生活環境課		欠席	
東京電力リニューアブルパワー株式会社 水力部 水利・尾瀬グループ	課長	大江 一彦	群馬
	副長	菊池 史郎	群馬
尾瀬山小屋組合	事務局(代理出席)	山田 克己	福島
公益財団法人尾瀬保護財団 企画課	課長	白石 光伸	群馬
	主事	矢島 知佳子	福島

【有識者】

宇都宮大学	名誉教授	谷本 丈夫	栃木
群馬県立自然史博物館	生物研究係 主幹	大森 威宏	群馬
広島修道大学	人間環境学部 准教授	奥田 圭	福島

【事務局】

関東地方環境事務所 国立公園課	次長	柴田 泰邦	—
	課長	井上 綾子	福島
野生生物課	課長補佐	青柳 信太	群馬
	自然保護官	池田 一穂	栃木B
	課長	佐藤 大樹	栃木B
日光国立公園管理事務所	鳥獣管理・感染症対策専門官	鈴木 真野	栃木A
	所長	千田 純子	栃木A
	国立公園保護管理企画官	二神 紀彦	栃木B
檜枝岐自然保護官事務所	生態系保全等専門員	吉川 美紀	栃木A
	国立公園管理官	桑原 大	福島
	生態系保全等専門員	奥村 修	福島
片品自然保護官事務所	自然保護官	石井 桃花	群馬
	自然保護官補佐	尾池 こず江	群馬
	生態系保全等専門員	小林 春香	群馬
株式会社テンドリル	代表取締役	淵脇 智博	群馬
	取締役	宮本 留衣	福島
	技師	坂本 祥乃	栃木B
株式会社野生動物保護管理事務所	代表取締役	濱崎 伸一郎	福島
	取締役/部長	奥村 忠誠	栃木A
	主任研究員	瀬戸 隆之	群馬
	主任研究員	後藤 拓弥	福島
	研究員	小林 祥	福島
	研究員	羽根田 貴行	群馬
	研究員	宗兼 明香	栃木A
	研究員	邑上 亮真	福島
研究員	吉田 真悟	栃木B	

【傍聴】

片品村 むらづくり観光課	課長	狩野 久良	群馬
	課長補佐	青木 厚	群馬
東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	所長	平石 忠一	群馬
	環境保全グループ	高野 尚之	群馬
三井物産フォレスト株式会社 本州事業部	部長	泊 広信	福島

2021(令和3年度)重点方針評価シート

資料 1

- 0・・・全く着手していない
- 1・・・調整を始めているが、取り組みに至っていない
- 2・・・実施しているが、課題がある
- 3・・・実施しており、特に課題はない(そのままの対策で継続すれば良い)

	R3重点方針	点数	有識者コメント	事務局評価		
				現状	課題	今後必要なこと
日光国立公園	日C1 湯元周辺、丸沼菅沼鳥獣保護区など高標高域、捕獲困難地域での捕獲の強化。	2	高標高域・捕獲困難地域で効率的に捕獲を実施するには、周辺環境条件(餌資源量)や被害状況、シカの行動特性等のモニタリングデータが重要になる。データに基づき、どこで、いつ捕獲すれば良いか検討していく必要がある。アクセスが悪い場所でも、早急なデータ収集が必要。また、日光白根山は群馬・栃木にまたがっており、両県で捕獲計画を立てていくのが良い。	捕獲を実施中の機関が多いが、モニタリングデータや目撃する頭数や頻度等からして個体数が減少している様子が無い。	白根山などの本当の意味での高標高域ではあまり捕獲を実施できていない。越冬地の個体数密度に対して、現状の捕獲圧では足りていない可能性がある。	移動経路データ等を見ても、高標高域に生息していることは確認されており、現地調査による捕獲適期の選定や罠設置場所の検討、捕獲方法の更なる調査・検討が必要。
	日C2 夏季の定住個体を対象とした捕獲の強化。更に効率的な捕獲手法への改善。	2	湯元スキー場、戦場ヶ原、中宮祠などどこにでもたくさんいる印象なので、定住個体を捕獲する対策は必要。GPS個体の情報から、行動特性に合わせて効率的に捕獲ができる場所・時期を割り出すと良い。また、夏季は密度が分散するため、冬季に形成される越冬地を狙って捕獲するのも1つの手。捕獲手法を変更しても、シカの行動パターンから効率的に捕獲できる場所・時期で実施することが重要。地元と連携し、地元の人材を積極的に活用していくと良い。	捕獲圧が足りていない。モニタリングデータや目撃する頭数や頻度等からして減少している様子が無い。	前年度から捕獲努力量は増えていない。湯元地域では捕獲方法を箱わなや囲いわなに変更したが、捕獲効率が低下した。	箱わなや囲いわなは捕獲効率ではくくりわなに劣るので、地元の人材を有効活用しつつの従事者数の確保が望まれる。地域に合わせたさらに効率的な捕獲手法・捕獲場所の模索が必要。(日M1で検討する捕獲計画を反映する)
	日M1 GPS追跡調査による定住個体の行動特性の把握と管理方針の検討。	1	GPSデータ、カメラデータ、植生被害データを収集し、シカが集中するエリアや特異的に出てくる時間帯を把握し、捕獲場所を絞っていくと良い。登山者からの情報や、ICTを活用した情報収集も有効。	R3は環境省がGPS追跡調査を初めて実施した。	データは収集中であり、まだ活用までは至っていない。	追跡個体数をさらに増やし、蓄積データから当該地に適した捕獲計画を立案する必要がある。
	日F1 防護柵の設置が必要な具体的エリアの検討。	1	保護の目的(植生全体を守る or 特定の種を守る)を考慮して、効率的な柵を設置すると良い。また、どの場所を最優先するのかを考えるためには、カメラ調査等でシカの出没状況を把握しておく必要がある。	防護方針まで議論が至っていない。鬼怒沼では、シカの食害を受けている希少種が確認されているが、対策の話まで至っていない。	関係機関の中で新規の柵設置の必要性について温度差がある。	関係機関や地元の考えを知り、防護への関心を引き出す。特に、鬼怒沼では早急な防護方針の検討が必要。

	R3重点方針	点数	有識者コメント	事務局評価		
				現状	課題	今後必要なこと
尾瀬国立公園	尾F1 優先防護エリア（特にA・Bランクの湿原、高山帯（燧ヶ岳、笠ヶ岳））への 防護柵の設置・継続 。	2	（既存柵について：維持管理） 維持管理が不十分である。柵の老朽化や人手不足のため、設置後にシカが侵入している場所があるほか、融雪期の再設置前に被害が出ないように、再設置のタイミングを設定する必要がある。維持管理体制の見直しが必要。 （既存柵について：柵周辺での採食被害） 背中アプリでは柵外のミツガシワが衰退している。設置当初は柵を警戒するが、数年で慣れ、破って侵入している。柵周辺は危険だという認識をシカに与える工夫が必要。あるいは研究見本園のように、周辺植生も含めて囲う方法も有効。 （新規柵設置について） 立地的に難しい場所が残っているが、関係者間で協同し、誰が担っていくのかを考えていく必要がある。	R3は新たに竜宮に設置。 燧ヶ岳は、福島県と負担分担を協議中。	A・Bランク、高山帯で設置目処が立っていない箇所がある。 また、柵の効果が十分に発揮されておらず（シカの侵入有、植生被害有、設置時期に課題有、グレーチング効果が不明）、維持管理が不十分な箇所がある。	未設置エリアへ新たに設置するための調整と、既設エリアでの課題の改善が必要。
	尾C1 尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化・継続 （雪解けのタイミングに合わせた捕獲の前倒し、新潟県域での捕獲の実施など）。	2	現在は様々な場所で植生被害が出ている。尾瀬総合学術調査結果、ドローン調査での画像解析及び現場に入っている人の意見を捕獲計画に反映し、出没や移動経路が集中する場所を見極めて効率的に実施していく必要がある。	R3は新たに新潟県域でも捕獲を実施。 河畔林での捕獲可否は調整中。 捕獲数は頭打ち状態。 ライトセンサスの最大確認頭数は依然として増加中。	新たに実施した新潟県では、捕獲方法が確立していなかった。尾瀬沼は尾瀬ヶ原に比べて捕獲適期が不明確であることが課題。 顕著な個体数減少や植生被害の減少は認められない。	捕獲努力量の増加、新たな捕獲方法・体制（薄明薄暮帯での銃器捕獲の実施、河畔林での捕獲の実施、捕獲に入る季節の見直しなど）の検討が必要。
	尾C2 移動経路上での捕獲の強化・継続 （移動経路遮断柵の活用、捕獲適期、適地の精査など）。	2	GPSデータから、移動ルートは把握できている。捕獲圧を加えると、分散するシカもいるので、抜け道に関する情報は地元から収集し、捕獲場所に追加する。また、遮断柵の活用方法も含め、捕獲効率を高めるための試行錯誤（現場の工夫）を続けるほかない。	捕獲頭数は目標には達している。 GPSとハイクカムにより捕獲適期と適地は大まかに把握されている。	移動遮断柵を避ける個体の存在や柵の一部から侵入している個体もいる可能性あり。 尾瀬での植生被害や湿原出没頭数は減少傾向に転じていない。	目標頭数の精査、 移動遮断柵を有効活用する方法の検討が必要（次年度は網を上げずに捕獲を実施し、網がある状態の捕獲効率と比較予定）。
	尾M1 燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺でのシカの生息状況の把握。	2	雪田群落が多いため、シカが侵入すると一気に被害が拡大する可能性がある。糞塊調査や痕跡調査を広域的に実施し、「どの辺りでどれくらい生息しているのか」「どう移動しているのか」を把握するとともに、植生被害が発生している場所や、被害が予測される場所にはカメラを設置し、継続してモニタリングを実施していく必要がある。アクセスが悪い場所ではあるが、関係機関が協力し、出来ることは実施していく必要がある。基礎的なデータの積み上げが必要なので、少しずつでも実施していくことが重要。また、状況に応じて優先防護エリアの見直しや、最優先で守るべきところへの予防対策としての柵設置などの対応が必要。	会津駒ヶ岳山麓と田代山では融雪期のシカの出現のタイミングの把握はできた。 近年は融雪時期が早まったとの話もあり、シカが高標高域に侵入しやすい環境に変化している可能性がある。	次年度以降のカメラの設置目処が立っておらず、継続的な調査体制が整っていない。 融雪期の調査において積雪期間中にカメラが故障したケースがあり、維持管理体制確立の必要がある。	生息密度の増減を把握するには、カメラ調査を継続することが肝要。関係機関同士でカメラの位置情報を共有することで、広域で見ても満遍なく設置・継続できるように戦略的に増設していく。

	R3重点方針	点数	有識者コメント	事務局評価		
				現状	課題	今後必要なこと
その他共通事項	共M1 捕獲関連データの記録項目の統一化。	2	出猟カレンダーは基礎的なデータを収集できる重要な手法。各県が現場と密に関わり、意思疎通を図っていくしかない。「なぜこのデータが必要なのか」「どう役立つか」について、理解を求める努力が必要。	出猟カレンダーに記載されている記録項目の統一化は図られた。栃木県では許可捕獲での出猟カレンダーの提出を求めており、概ね回収できている。栃木県にてデータを取りまとめて毎年モニタリング報告書を公開している。	福島県では許可捕獲分も出猟カレンダーを配布しているが、データが充分に出揃わない。群馬県では許可捕獲での出猟カレンダーの普及を進めている最中だが、不十分。	実際に書いてもらうには根気よく捕獲者に依頼する必要がある。
	共F1 効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法に関する検討・情報共有。	1	設置する以上に、設置後の維持管理が重要。今後持続的に管理していくにあたっての体制構築・人材育成が課題であり、重点的に考えていく必要がある。また、設置前・設置中のシカの侵入をどう食い止めるか、工夫が必要。設置場所ごとに状況は異なるので、試行錯誤して具体的な対策を実施する。また、各調査結果を対策に活用すべき。現在、新潟県に優先防護エリアは設定されていないが、被害が確認されているため、今後は新潟県域に係る関係者間の連携を強化していく必要がある。	【群馬】 第1回協議会GWで環境省・群馬県柵については情報共有を行った。 【福島】 檜枝岐村とは設置しやすい柵について検討したが、統一化に至っていない。 【新潟】 新潟県域において優先防護エリアは設定されており、防護柵は設置されていない。 【栃木】 管理が不十分な柵があり、植生被害も見られる。	地域別でかなり現状に差がある。 【群馬】最適な手法はまだ不明。 【福島】問題視はされているものの、統一化に向けた全体的な情報共有や検討はしていない（大江湿原柵については第2回協議会GWで取り上げる予定）。 【新潟】 今後設置が必要な箇所が確認された場合は調整を進める必要がある。 【栃木】 そもそも管理体制や植生被害について問題提起自体されていない。	行政界をまたいで、様々な機関から課題や知見を集め、それぞれの地域の対策段階に応じた対応が必要である。
	共M2 センサーカメラなどモニタリング方法・解析方法の統一化。	0	各機関のカメラ調査目的が曖昧になっているため、目的を明確化する必要がある。モニタリング実施者で議論できる場や、各調査結果を使って解析できるプラットフォームがあるとよい。環境省でデータ収集マニュアル（増加時期とオスメス比の把握、撮影頻度）を作成してはどうか。	解析方法（撮影回数→撮影頻度）は年次レポート作成段階でWMOが統一した。	モニタリング方法については調整していない。	新規にカメラ調査を実施する分については、統一化を図る。方法については、どの機関が、どのような目的で、どのような調査を行っているのか取りまとめた上で検討し、関係機関に共有する。

2022(令和4)年度 実施計画 (案)

1. 現状と課題

- 日光・尾瀬地域とも、シカ生息密度は引き続き高い水準にあり、捕獲困難地域での捕獲の強化が必要。
- 日光地域では、捕獲計画の立案のためにGPS追跡調査データの蓄積が必要。
- 尾瀬地域では、2024(令和6)年までに優先防護エリア（A・Bランク）へ防護柵を設置することとしているが、笠ヶ岳、燧ヶ岳、泉水田代、見晴地区への設置が完了していない。
- 防護柵の設置・維持管理手法や、モニタリング方法の情報共有が図られていない。

2. 重点方針

日光国立公園

- 高標高域、捕獲困難地域での捕獲の強化・継続。
- 夏季の定住個体を対象とした捕獲を地域主体で効率的に実施。
- 日光版の優先防護エリア案の作成を検討する。
- 夏季の定住個体に装着したGPS首輪調査で把握した夏季定住地、移動経路や越冬地における最適な捕獲の検討。

尾瀬国立公園

- 尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化・継続（捕獲適期の検討。六兵衛堀周辺（河畔林）での捕獲の実施など）。
- 通信機能付きカメラを利用したリアルタイムの移動状況の共有による移動経路上での捕獲の強化・継続。
- 優先防護エリアのA・Bランクに防護柵の設置・継続・検討。
- 燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺の優先防護エリアに防護柵の設置を検討。

その他共通事項

- 捕獲目標数は捕獲実績、対策方針を踏まえて設定。
- 効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法に関する検討・情報共有。
- 出猟カレンダー(指定管理・有害捕獲)の普及。
- 防護柵や優先防護エリア、過去の季節移動経路等の位置情報をGISに集約し、協議会構成員で共有する。

3. 関係機関の取組

(1) 捕獲

地域	重点方針2021(R3)	重点方針2022(R4)	実施場所	実施主体	手法	制度	2020(R2)年度実績(達成率)	2021(R3)年度実績(達成率)	実施中または未達成:*	2022(R4)年度目標	2021(R3)年度の課題(※は補足説明)	捕獲数を伸ばすための2022(R4)年度の工夫
栃木県	-	-	戦場ヶ原柵内及び周辺	関東地方環境事務所	くくり罠、囲い罠	個体数調整	34頭(340%)	柵内:実施中 柵外:17頭	*	柵内5頭		引き続き捕獲適期(融雪時期)に実施する
	日C2	日C2	奥日光	関東地方環境事務所	囲い罠、箱罠	指定管理	16頭(160%)	13頭(130%)		50頭	指定管理捕獲だったため捕獲作業に従事できる人員に制限があり、地元の人材を有効活用できなかった。そのため、遠方の業者による作業は柔軟に対応することが難しく、罠稼働可能日の制限があった。	囲い罠、箱罠であれば地元の捕獲者による作業をした方が効率が良い。罠設置場所を再検討する。
	日C1	日C1	奥日光(千手・菖蒲林道・丸山地区)	日光森林管理署	くくり罠	有害	39頭(130%)	実施せず	*	実施予定	(委託) 諸般の事情により取りやめ	区域の拡大
	日C1	日C1	日光(野州原地区)	日光森林管理署	くくり罠	有害	-	65頭(108%)		60頭	(委託) 11月終了	区域の拡大
	日C1	日C1	足尾(足尾町湖南国有林)	日光森林管理署	くくり罠・囲い罠	有害	0頭(-%)	実施中	*	実施予定	(直営)	
	日C1	日C1	柳沢林道	日光森林管理署	くくり罠	有害	12頭(-%)	10頭		実施予定	(直営) 10月に終了	
	日C1	日C1	白根山(五色沼周辺)	栃木県(林業センター)	くくり罠	有害	実施せず	実施せず		未定		
	-	-	千手ヶ原	栃木県(林業センター)	くくり罠	有害	0頭(0%)	3頭(6%)	*	未定		
	日C1	日C1	奥日光(社山)	栃木県	銃器	指定管理	45頭(50%)	実施中	*	40頭		
	日C1	日C1	足尾	栃木県	ICT囲い罠	指定管理	-	実施中	*	10頭		
	日C1	日C1	千手ヶ原	栃木県	ICT箱罠	指定管理	-	実施中	*	10頭		
	-	-	栃木県(対策対象範囲内)	栃木県登録狩猟者	くくり罠・銃器・箱罠	狩猟	400頭	実施中	*	1頭	※狩猟は任意なので、目標頭数は設定していない。	
	日C1	日C1	奥日光全域	日光市	くくり罠・銃器	有害	実施せず	実施中	*	100頭	※2021(R3)年度からの新規事業、次年度以降は日光地域シカ対策共同体事業として実施していく方向で調整中	
	日C1	日C1	足尾(仁田元沢、久蔵沢、安蘇沢)	日光市	銃器	有害	実施せず	実施中	*	100頭	2020(R2)年度は新型コロナの影響により中止	適正な時期(移動個体の密度が濃い時期)に捕獲ができるよう現地調査を綿密に実施。
	日C1	日C1	三岳	日光市	銃器	有害	実施せず	実施中	*	30頭	2020(R2)年度は新型コロナの影響により中止	適正な時期(移動個体の密度が濃い時期)に捕獲ができるよう現地調査を綿密に実施。
	日C1	日C1	男体山南斜面	日光市	銃器	有害	実施せず	実施中	*	100頭	2020(R2)年度は新型コロナの影響により中止	適正な時期(移動個体の密度が濃い時期)に捕獲ができるよう現地調査を綿密に実施。
-	-	市道1002号沿線	日光地域シカ対策共同体	銃器(モバイルカリング)	個体数調整	実施せず	実施せず		未定			
群馬県	-	-	沼田市利根町	利根沼田森林管理署	くくり罠	有害	28頭(48%)	実施せず	*	58頭	予算の配賦がなかったため不実行。	誘引捕獲を取り入れる。
	尾C2	尾C2	国道401号・120号	群馬県	くくり罠・銃器	指定管理	206頭(133%)	241頭(155%) ※11月時点	*	170頭	尾瀬に隣接し、季節移動経路上にある「丸沼菅沼鳥獣保護区」を捕獲区域に追加実施中。捕獲をより一層推進するため、奥鬼怒林道に設置された移動遮断柵を活用した捕獲を試行。	尾瀬に隣接し、季節移動経路上にある「丸沼菅沼鳥獣保護区」を捕獲区域に継続して含める。奥鬼怒林道に設置された移動遮断柵を活用した捕獲の効果を検証するため、R4年度はネットを上げずに捕獲を実施予定。
	-	-	群馬県(対策対象範囲内)	群馬県登録狩猟者	くくり罠・銃器	狩猟	1147頭	実施中	*	1頭	※狩猟は任意なので、目標頭数は設定していない。	
	-	-	片品村	片品村	くくり罠・銃器	有害	251頭(157%)	実施中	*	260頭		
尾瀬ヶ原・尾瀬沼	尾C1	尾C1	尾瀬ヶ原	関東地方環境事務所	くくり罠・銃器	指定管理	59頭(98%)	60頭(92%)	*	65頭	・2020(R2)年度に多く捕獲できた福島県域でシカの出没が減少した。 ・新たな地域である新潟県域での捕獲方法が確立していなかった。 ・秋季は天候不順がシカの出没に影響した。	河畔林での捕獲を検討 夜間銃猟の実現可能性の検討
	尾C1	尾C1	尾瀬沼	関東地方環境事務所	くくり罠・銃器	指定管理	18頭(120%)	12頭(48%)	*	25頭	尾瀬ヶ原に比べて捕獲適期が不明確	捕獲に入る季節の見直し(特に春季の検討)
	尾C1	尾C1	大江湿原	関東地方環境事務所	くくり罠	有害	13頭(87%)	15頭(75%)	*	20頭		捕獲範囲の拡大(浅湖湿原周囲・大江湿原東側を追加予定)
福島県	-	-	南会津地方(尾瀬地域)	福島県	くくり罠・銃器	指定管理	108頭	141頭 ※10月末時点	*	320頭		捕獲目標は尾瀬の周辺地域を含めた頭数。十分な捕獲を実施するための予算確保が必要。
	-	-	福島県(対策対象範囲内)	福島県登録狩猟者	くくり罠・銃器	狩猟	107頭	実施中	*	1頭	※狩猟は任意なので、目標頭数は設定していない。	
	-	-	南会津町全域	南会津町	くくり罠・銃器	個体数調整	0頭	実施中	*	1頭	2020(R2)年度:対象区域内0頭、南会津町全域327頭	

(2) 植生保護

地域	重点方針 2021 (R3)	重点方針 2022 (R4)	実施場所	実施主体	柵の種類	規模 (周囲長、面積)	開始 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	柵内植生被害 無し：○ 有り：× 不明：不明	2021 (R3) 年度の課題	課題解決のための2022 (R4) 年度の工夫
日光	-	-	戦場ヶ原	関東地方環境事務所	ネット柵	16,961m、980ha	2001 (H13)			×	イノシシ等が原因の柵の破損増加	頻繁な巡視による補修対応の継続 イノシシ等が原因の柵の破損箇所からシカが侵入 するのかどうかモニタリグする
	-	-	白根山シラネアオイ群生地	栃木県	電気柵	905m、1.6ha	1993 (H5)			○		
	-	-	白根山シラネアオイ群生地等	群馬県	電気柵	0.4ha	1995 (H7)			○	電柵、ソーラーパネルの老朽化。	ソーラーパネルを更新予定。
尾瀬	尾F1	尾F1	尾瀬ヶ原（ヨッピー川南岸）	関東地方環境事務所	ネット柵	964m、3.5ha	2018 (H30)			○	特になし。	ニッコウキスゲのモニタリングを継続する。
	尾F1	尾F1	尾瀬ヶ原（下ノ大堀）	関東地方環境事務所	ネット柵	890m、5.3ha	2020 (R2)			不明	シカ、ツキノワグマの侵入が確認され、柵の支柱 折れ等の破損がみられた。	シカは、柵が下ノ大堀川下流を横断する箇所から 濁水時期に侵入している可能性がある。スカート ネットの改善や水位変動後に巡視を実施するなどの 対応を行う。
	尾F1	尾F1	■■■■■	関東地方環境事務所	ネット柵	40m×2箇所	2019 (R1)			○	野生動物によるネットの破損が確認された。	これまで小規模柵で使用していたネットは劣化し やすいことが分かったため、2022 (R4) 年からは尾 瀬ヶ原の大規模柵と同様のネットを使用する。
	尾F1	尾F1	■■■■■	関東地方環境事務所	ネット柵	70m×1箇所 40m×1箇所	2020 (R2)			○	ネットの劣化が懸念される。	
	尾F1	尾F1	大江湿原	会津森林管理署南会津支 署	金属網	2,000m	2014 (H26)			×		
	尾F1	尾F1		南会津尾瀬ニホンジカ対 策協議会（事務局：南会 津地方振興局）	金属網	1,550m	2017 (H29)			×	設置・撤去時期について、関係機関との連携が必 要。 新型コロナウイルスの影響により実施方法の検討が必要。 例年のボランティアによる設置・撤去は、R3は新 型コロナの影響により見合せ。	関係機関との情報共有をより緊密に行う
	尾F1	尾F1		関東地方環境事務所	ネット柵	160m	2018 (H30)			×		
	尾F1	尾F1	至仏山オヤマ沢田代	群馬県	ネット柵	305m、0.44ha	2020 (R2)			○	・標高が高いため（2,043m）、櫓型支柱の越冬に よる損傷が大きい。 ・再設置・格納・モニタリング費用の都合から維持 管理が困難。	・2021 (R3) 年中に改良型の櫓型支柱を導入してい る。 ・再設置・格納・モニタリング手法を検討。
	尾F1	尾F1	笠ヶ岳	-	-	-	-					
	尾F1	尾F1	尾瀬ヶ原（研究見本園）	群馬県	ネット柵	1,125m、6.13ha	2020 (R2)			○	・保護面積を拡大（規模確認中）。 ・至仏山オヤマ沢田代と同様。	・再設置・格納をボランティアにより実施予定。 ・至仏山オヤマ沢田代と同様。
	尾F1	尾F1	尾瀬ヶ原（背中アブリ田 代）	群馬県	ネット柵	0.06ha	2012 (H24)			×	・柵設置後に、柵内にニホンジカが侵入。 ・ミツガシワ等が食害にあった。	・有識者に意見徴収した上で、柵の設置の有無も 含めて再検討する。
	-	-	尾瀬ヶ原（鳩待峠・山の鼻 間シラネアオイ群生地）	群馬県	電気柵	14m、0.001ha	2014 (H26)			○	特になし。	引き続き同規模で設置予定。
	尾F1	尾F1	尾瀬ヶ原（竜宮）	関東地方環境事務所	ネット柵	1,179m、6.36ha	2021 (R3)			不明	シカ、ツキノワグマの侵入が確認され、柵の支柱 折れ等の破損がみられた。	シカの侵入箇所は不明のため、侵入可能性のある 箇所について継続してモニタリングを行う。 木道の開閉扉は機能性と利便性を考慮して改善を 行う。
尾F1	尾F1	尾瀬ヶ原（泉水田代）	-	-	-	-						
尾F1	尾F1	尾瀬ヶ原（見晴）	-	-	-	-						
尾F1	尾F1	燧ヶ岳山頂周辺	関東地方環境事務所 福島県	ネット柵	30m×2	2022 (R4)			-		夏頃までに設置予定	
尾F1	尾F1	大清水湿原	片品村	金属網	644m、0.36a	2018 (H30)			○	設置柵を維持するための予算確保。		
尾F1	尾F1	御池田代	檜枝岐村	ネット柵	1,093m	2020 (R2)			○	ZUZU(R2)年に当柵を設置したが、2021(R3)年には 雪によりワイヤーが切れてしまった。また、残雪 により、雪が消えないとネットを張ることができ ない。	R4年度設置に向けワイヤーが切れてしまったと ころは、取外し可能にし、残雪等については、対策 を検討中。	
その他	尾C2	-	シカ移動遮断柵（奥鬼怒林道）	関東地方環境事務所	ネット柵	4.5km	2008 (H20)				柵沿いで実施した群馬県による指定管理捕獲が、 柵を活用しきれているのかわからない。	柵沿いの捕獲効果を検証するため、R4年度はネット を上げずに、群馬県による指定管理捕獲を実施 予定。

(3) モニタリング

指標	手法	実施主体	実施場所	重点方針 2021 (R3)	重点方針 2022 (R4)	開始 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2021 (R3)年度の課題	課題解決のための2022 (R4)年度の工夫
シカ生息密度	センサーカメラ	関東地方環境事務所	丸沼（唐沢山）	-	尾C2	2014 (H26)	→			
	センサーカメラ	関東地方環境事務所	奥鬼怒林道	-	-	2014 (H26)	→			
	センサーカメラ	関東地方環境事務所	尾瀬ヶ原	-	-	2012 (H24)	→		モニタリング開始時から周辺環境が変化し、センサーカメラ調査に適さない箇所が生じている。（河川の土砂流出攪乱により下層植生が繁茂、気象害により設置木が立木枯死、等）	モニタリングに影響のない程度に設置場所の微修正を行う。
	センサーカメラ	関東地方環境事務所	田代山、帝釈山、会津駒ヶ岳	尾M1	-	2020 (R2)	→		（結果）田代山・帝釈山では積雪期にシカの生息が確認できなかった。融雪後、5月から撮影数の増加が確認された。	
	センサーカメラ	中越森林管理署	東電小屋付近	-	-	2014 (H26)	→			
	センサーカメラ	栃木県	千手ヶ原	-	-	2010 (H22)	→			
	センサーカメラ	群馬県	国道401号・120号	尾C2	-	2016 (H28)	→		大清水地域は季節移動ルートの分散化が顕著。	捕獲等の効果検証のため調査を継続予定。
	センサーカメラ	南会津町	駒止湿原	-	-	2015 (H27)	→			
	センサーカメラ	南会津町	南会津町、昭和村	-	-	2019 (R1)	→			
	ライトセンサス	関東地方環境事務所	戦場ヶ原周辺（柵内外道路）	-	-	2002 (H14)	→			
	ライトセンサス	関東地方環境事務所	尾瀬ヶ原、尾瀬沼	-	-	2001 (H13)	→		調査日程や気象条件によって、過年度との比較が難しい場合がある。	調査時の条件を可能な限り一定にし、モニタリングを継続する。また迅速なデータ処理を行い、速報を配信する。
	ライトセンサス	栃木県	鬼怒沼	-	-	1998 (H10)	→		※2021 (R3)年度は新型コロナウイルスの影響により中止	
	ライトセンサス	栃木県	白根山	-	-	2013 (H25)	→			
	ライトセンサス	南会津町	田島地域	-	-	2016 (H28)	→			
	糞塊密度法	栃木県	栃木県全域	-	-	2014 (H26)	→			
	糞塊密度法	群馬県	群馬県全域	-	-	2013 (H25)	→			
	糞塊密度法	福島県	福島県全域	尾M1	-	2019 (R1)	→		同地点で引き続き調査ができるよう取り組む。	継続調査できるよう予算を確保する。
	区画法	関東地方環境事務所	戦場ヶ原（柵内）	-	-	2006 (H18)	→			
	区画法及び定点観察	栃木県	奥日光、表日光、足尾	-	-	1995 (H7)	→			
	シカ移動経路	GPS移動経路	関東地方環境事務所	奥日光	日M1	日M1	2021 (R3)	→		当該地域での生体捕獲が初年度だったため、事前調整や作業全般の手順が確立されていなかった。今年度の実施時期は夕方に悪天候になりやすかった。
GPS移動経路		関東地方環境事務所	尾瀬～越冬地	-	-	2008 (H20)	→		尾瀬ヶ原の河畔林での生体捕獲の調整が間に合わなかった。	河畔林で生体捕獲を実施する。データが一定数収集できていることから、2022 (R4)年度～装着个体数を3頭→2頭に減少（追跡期間を2年→3or4年に延長）。
GPS移動経路		南会津町、昭和村	南会津町、昭和村	-	-	2017 (H29)	→		2021 (R3)年は伊南地域で1頭を捕獲し追跡中。	
植生被害	採食状況	関東地方環境事務所	尾瀬ヶ原、尾瀬沼、至仏山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山、笠ヶ岳	尾M1	-	2007 (H19)	→			
	植生被害状況調査	関東地方環境事務所	鬼怒沼	日F1	日F1	2021 (R3)	→		シカの影響が高まり、全体的な開花状況・希少種の生育環境が悪化している。調査結果を活用した防護方針の検討 今後の調査優先順位が定まっていない	調査結果を活用した防護方針の検討→早急な対策の実施対策を継続して行えるよう、関係機関との協力体制の構築等 情報収集、地元住民を巻き込みながらの防護手法の検討
	植生回復モニタリング	栃木県	小田代原、千手ヶ原、赤沼	-	-	2005 (H17)	→			
	下層植生衰退度（SDR）	栃木県	栃木県全域	-	-	2017 (H29)	→		次回実施の検討	
	湿原植生モニタリング	群馬県	尾瀬ヶ原（背中アブリ田代、研究見本園、竜宮）、至仏山オヤマ沢	尾F1	尾F1 共F1	2012 (H24)	→		-	植生保護柵の効果検証のためモニタリングを継続予定。
	簡易コドラート法	南会津町	南会津町、昭和村	-	-	2019 (R1)	→		2020 (R2)～2021 (R3)年度はコロナ禍により実施見送り	

2021(R3)年度 重点方針 ・ 2022(R4)年度 重点方針

	日光国立公園	尾瀬国立公園	その他共通事項
2021 (R3) 年度 重点方針	<p>日C1 湯元周辺、丸沼菅沼鳥獣保護区など高標高域、捕獲困難地域での捕獲の強化・継続。</p> <p>日C2 夏季の定住個体を対象とした捕獲の強化。更に効率的な捕獲手法への改善。</p> <p>日M1 GPS追跡調査による定住個体の行動特性の把握と管理方針の検討。</p> <p>日F1 防護柵の設置が必要な具体的エリアの検討。</p>	<p>尾F1 優先防護エリア（特にA・Bランクの湿原、高山帯（燧ヶ岳、笠ヶ岳））への防護柵の設置・継続。</p> <p>尾C1 尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化・継続（雪解けのタイミングに合わせた捕獲の前倒し、新潟県域での捕獲の実施など）。</p> <p>尾C2 移動経路上での捕獲の強化・継続（移動経路遮断柵の活用、捕獲適期、適地の精査など）。</p> <p>尾M1 燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺でのシカの生息状況の把握。</p>	<p>共M1 捕獲関連データの記録項目の統一化。</p> <p>共F1 効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法に関する検討・情報共有。</p> <p>共M2 センサーカメラなどモニタリング方法・解析方法の統一化</p>
2022 (R4) 年度 重点方針	<p>日C1 高標高域、捕獲困難地域での捕獲の強化・継続。</p> <p>日C2 夏季の定住個体を対象とした捕獲を地域主体で効率的に実施。</p> <p>日F1 日光版の優先防護エリア案を作成を検討する。</p> <p>日M1 夏季の定住個体に装着したGPS首輪調査で把握した夏季定住地、移動経路や越冬地における最適な捕獲の検討。</p>	<p>尾C1 尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化・継続（捕獲適期の検討。六兵衛堀周辺（河畔林）での捕獲の実施など）。</p> <p>尾C2 通信機能付きカメラを利用したリアルタイムの移動状況の共有による移動経路上での捕獲の強化・継続。</p> <p>尾F1 優先防護エリアのA・Bランクに防護柵の設置・継続・検討。</p> <p>尾F1 燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺の優先防護エリアに防護柵の設置を検討。</p>	<p>共C1 捕獲目標数は捕獲実績、対策方針を踏まえて設定。</p> <p>共F1 効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法に関する検討・情報共有。</p> <p>共M1 出猟カレンダー（指定管理・有害捕獲）の普及。</p> <p>共X1 防護柵や優先防護エリア、過去の季節移動経路等の位置情報をGISに集約し、協議会構成員で共有する。</p>

2022(R4)年度実施計画 捕獲位置図

資料 2-1

捕獲エリア

- 1000頭～
- 500頭～
- 100頭～
- 50頭～
- 1頭～
- 0頭

GPS首輪 移動経路

- 尾瀬ヶ原-越冬地
- 尾瀬沼-越冬地
- 檜枝岐-越冬地

国立公園 (尾瀬+日光)

- 特別保護地区
- 第1種特別地域
- 第2種特別地域
- 第3種特別地域

環境省
指定管理鳥獣捕獲等事業
(くくり罠, 銃器)

尾瀬ヶ原	尾瀬沼	大江湿原
2020 59頭	2020 18頭	2020 13頭
2021 60頭	2021 12頭	2021 15頭
2022(目標) 65頭	2022(目標) 25頭	2022(目標) 20頭

片品村 有害鳥獣捕獲 (くくり罠, 銃器)	有害	狩猟
2020 251頭	2020 251頭	2020 1147頭
2021 実施中	2021 実施中	2021 実施中
2022(目標) 260頭	2022(目標) 260頭	2022(目標) 実施予定

日光森林管理署 有害鳥獣捕獲 (くくり罠)	日光森林管理署	林業センター
2020 51頭	2020 51頭	2020 0頭
2021 75頭	2021 75頭	2021 3頭
2022(目標) 実施予定	2022(目標) 実施予定	2022(目標) 未定

利根沼田森林管理署
有害鳥獣捕獲
(くくり罠)

2020 28頭	2021 実施せず	2022(目標) 58頭
-------------	--------------	-----------------

日光森林管理署 有害鳥獣捕獲(くくり罠, 囲い罠)	日光市 有害鳥獣捕獲(銃器)	栃木県 指定管理鳥獣捕獲等事業 (ICT囲い罠)
2020 0頭	2020 実施せず	2020 —
2021 実施中	2021 実施中	2021 実施中
2022(目標) 実施予定	2022(目標) 100頭	2022(目標) 10頭

日光森林管理署	日光市	栃木県
2020 0頭	2020 実施せず	2020 —
2021 実施中	2021 実施中	2021 実施中
2022(目標) 実施予定	2022(目標) 100頭	2022(目標) 10頭

日光市 有害鳥獣捕獲(銃器)	環境省 有害鳥獣捕獲(銃器)	環境省 指定管理鳥獣捕獲等事業 (囲い罠, 箱罠)
2020 実施せず	2020 実施せず	2020 16頭
2021 実施中	2021 実施中	2021 13頭
2022(目標) 100頭	2022(目標) 30頭	2022(目標) 50頭

日光市 有害鳥獣捕獲(くくり罠, 銃器)	環境省 有害鳥獣捕獲(くくり罠, 銃器)	環境省 有害鳥獣捕獲(くくり罠, 銃器)
2020 —	2020 —	2020 —
2021 実施中	2021 実施中	2021 17頭(実施中)
2022(目標) 100頭	2022(目標) 100頭	2022(目標) 柵内5頭

福島県登録狩猟者 狩猟 (くくり罠, 銃器)
2020 107頭
2021 実施中
2022(目標) 実施予定

福島県 指定管理鳥獣捕獲等事業 (尾瀬地方) (くくり罠, 銃器)
2020 108頭
2021 141頭(実施中)
2022(目標) 320頭

南会津町 有害鳥獣捕獲 (くくり罠, 銃器)
2020 0頭
2021 実施中
2022(目標) 実施予定

群馬県 指定管理鳥獣捕獲等事業 (くくり罠, 銃器)
2020 206頭
2021 239頭(実施中)
2022(目標) 170頭

栃木県林業センター 有害鳥獣捕獲 (くくり罠)
2020 実施せず
2021 実施せず
2022(目標) 未定

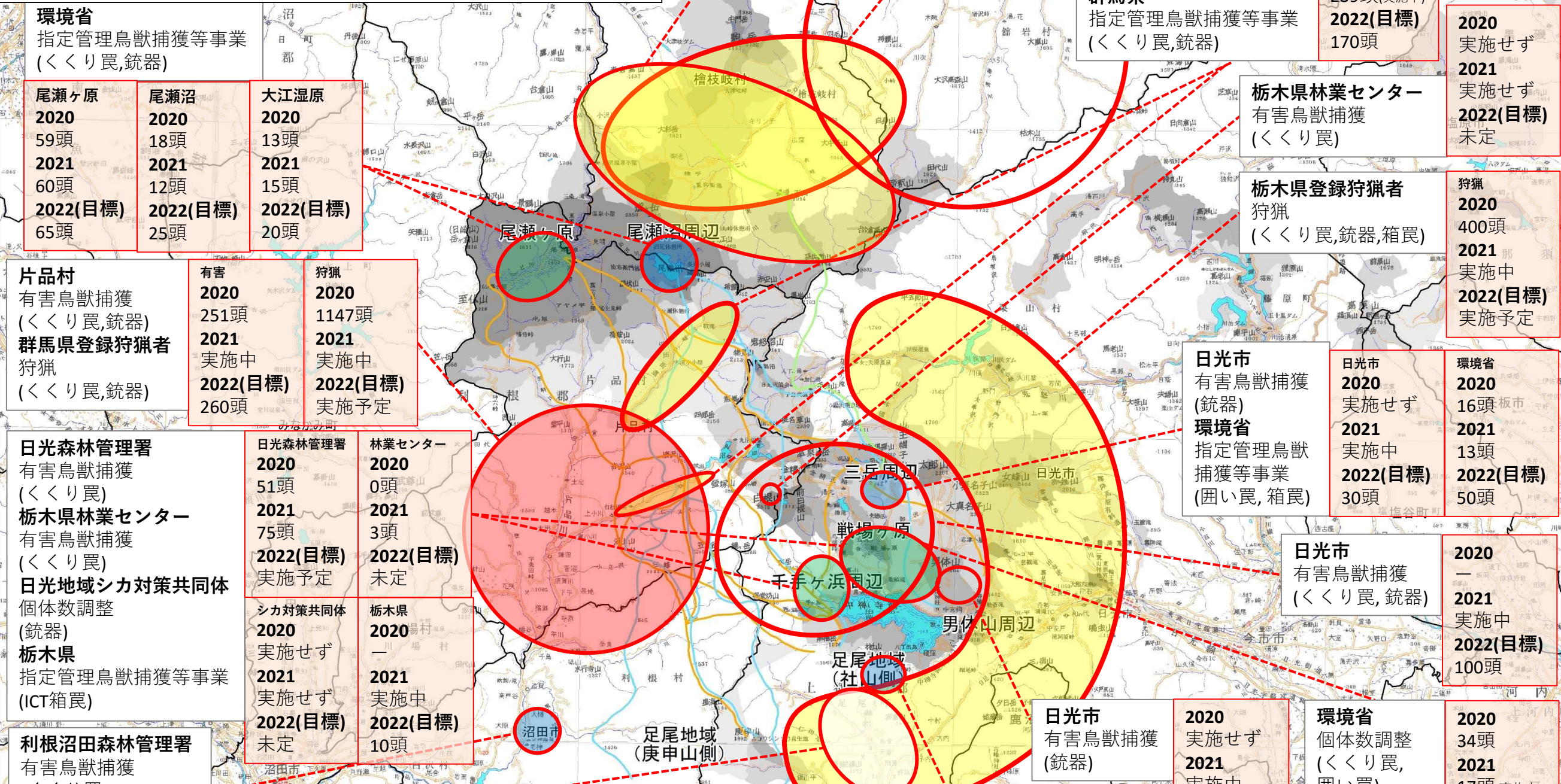
栃木県登録狩猟者 狩猟 (くくり罠, 銃器, 箱罠)
狩猟 2020 400頭
2021 実施中
2022(目標) 実施予定

日光市 有害鳥獣捕獲 (銃器)	環境省 指定管理鳥獣捕獲等事業 (囲い罠, 箱罠)
2020 実施せず	2020 16頭
2021 実施中	2021 13頭
2022(目標) 30頭	2022(目標) 50頭

日光市 有害鳥獣捕獲 (くくり罠, 銃器)
2020 —
2021 実施中
2022(目標) 100頭

日光市 有害鳥獣捕獲 (銃器)
2020 実施せず
2021 実施中
2022(目標) 100頭

環境省 有害鳥獣捕獲 (くくり罠, 銃器)
2020 34頭
2021 17頭(実施中)
2022(目標) 柵内5頭



Googleマイマップによる 情報共有

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会

令和4年度の重点方針

- ▶ 防護柵や優先防護エリア、過去の季節移動経路等の位置情報をGISに**集約**し、協議会構成員で**共有**する
- ▶ 環境省から提案するシステム：Googleマイマップ

Googleマイマップを表示してみよう

現在表示されている情報

- ▶ 季節移動経路（過去5年分・秋季）
- ▶ センサーカメラの位置（環境省管理）
- ▶ シカ柵の位置（戦場ヶ原・奥鬼怒林道）

使い方の具体例

- ▶ 捕獲地域を選定する時に
 - ▶ 移動経路、越冬地など
- ▶ 新しくセンサーカメラを設置する時に
 - ▶ 他の機関と重複しない場所に
- ▶ 順次、情報を拡充するので自由に閲覧してください

注意点

- ▶ URLは協議会メンバーだけのものとして、むやみに公開しない
- ▶ 現在マップ上にあるデータの著作権は全て環境省に帰属します
- ▶ 現在マップ上にあるデータを二次利用したい場合には環境省まで連絡してください
- ▶ 今後、協議会の皆様が管理されているカメラや柵の位置情報もアップできるような仕組みを検討していきます